

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年 1月 20日

1. 職名・氏名 准教授・松本涼

2. 学位 学位 文学修士、専門分野 西洋史学、授与機関 京都大学、授与年 2007年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「西洋史」（2単位 毎年開講） 1・2・3年生	
②内容・ねらい 今年度は Brexit との関連から「イギリスとヨーロッパ」をテーマとし、古代から現代までイギリスがどのようにヨーロッパと関係を結んできたのかを概説した。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本年度はオンデマンド形式で講義をおこなった。レジュメ、スライド、講義の録画、参考文献PDFをネット上で共有したほか、レジュメの印刷が困難な受講生に対しては郵送で配布するなど、できるかぎり受講環境の格差が生じないように配慮をした。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「神話学」（2単位 毎年開講） 1・2・3年生	
②内容・ねらい 北欧神話を題材として、神話とそれを生み出す・利用する社会との関係を考察した。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 動画や画像を多用するほか、マンガやゲームといったサブカルチャーにおいて北欧神話がどのように利用されているかという考察も組み込み、学生が授業のテーマを身近に感じられるよう工夫をしている。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「歴史学」（2単位 毎年開講） 1・2・3年生	
②内容・ねらい 歴史学という学問の方法や目的を考える内容である。とくに社会史の実践例をテーマとし、動物裁判や幽霊、ペスト、魔女といった事例がどのように研究されているのかを紹介した。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学説を比較したり、史料の一部を読んで考察する課題を出し、実践を通して学問の特徴をつかめるよう工夫している。また、今年は社会状況との関連からペストの歴史の専門家に Zoom で講義をしてもらい、感染症をめぐる中近世と現代との共通点や相違点について考えた。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「導入ゼミ」（2単位 毎年開講） 1年生	

②内容・ねらい 新入生に大学の勉強の基礎を教える。西洋史に関するマンガをテキストとして読解の練習をし、その後レポートの書き方を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年はオンライン授業となったため、上級生に参加してもらい時間割作成や学生生活のアドバイスをしてもらったり、ブレイクアウトセッションを使ってなるべく学生同士が話しやすいような環境作りを心がけた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「教養ゼミ」（2単位 毎年開講） 1年生
②内容・ねらい ヨーロッパ史に関する新書を読み、歴史と現代社会との関係を考える。その後学生自身が歴史と現代社会に関するテーマを決め、レポートを作成する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 感染症対策のため、対面授業中は議論についても1人1人発言する形式を取っていたが、学生からグループワークをしたいという要望があったため、フェイスシールドを使用してグループワークをおこなった。例年よりも議論は活発だった。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「学術ゼミ」（2単位 毎年開講） 2・3・4年生
②内容・ねらい 受講生と相談の上、前期はアーサー王伝説に関する論文集、後記はセーラムの魔女狩りに関する概説書を輪読した。どちらもサブカルチャーや現在のコロナ禍などつながりがあり、現代との関連についても議論することができた。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Zoomでのオンライン講義の利点を生かし、ゲスト講師を積極的に招いた。また、オンラインでも議論がしやすいよう共有ドキュメントを作成し、そこに意見を書き込んでいくことで参加者に論点がわかりやすいよう工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「日本の文化と社会」（2単位 毎年開講） 1・2・3年生
②内容・ねらい オムニバス授業の一コマを担当し、ジブリ映画『もののけ姫』にどのように日本の歴史学の成果が反映されているのかを講義した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 Zoomでのオンライン授業となり、映画の映像を流すことは著作権上難しかったため、コミック版を利用し、映画の内容に即して歴史学との関連を解説した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 「比較文化論」（2単位 毎年開講） 1・2・3年生

②内容・ねらい

オムニバス授業の一コマを担当し、自然環境や文学を中心にアイスランドの文化を紹介した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

授業中に 30 分ほど、アイスランド在住の大学院に近世以降のアイスランドの文学史について話をしてもらった。時差があるため、事前に **Zoom** で録画したインタビューを流した。コロナウイルス対策などのアイスランドの現況についても触れてもらったところ、学生から現地在住の人の話を聞いて良かったという感想が多く寄せられ、好評だった。オンライン授業の体制が整ってきたことで、遠方や海外からゲスト講師に授業に参加してもらうことが容易になったので、今後ほかの授業でも活かしていきたい。

(2)その他の教育活動

内容

・大阪大学前期集中講義「北欧文化演習Ⅱb」: **Zoom** のオンライン講義で、大阪大学で北欧文化を学ぶ学生を対象にアイスランドの歴史や文化、現代の社会問題等について講義した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり） 「〔研究ノート〕中世アイスランド史と紛争・フェーデ研究」単著、『福井県立大学論集』第55号、2020年12月受理	【1本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等 「北大西洋をこえる権力：13世紀前半におけるアイスランド人とノルウェー商人との紛争から」（小シンポII 中世北ヨーロッパにおける海域ネットワーク、島嶼、政治権力）第70回 日本西洋史学会大会（2020年12月）、単独報告	【1件】
⑤その他の公表実績 『『ヴィンランド・サガ』の世界を語る！ 歴史とサガとエンターテイメント！ ―せんだい歴史学カフェ座談会 幸村誠氏を囲んで―』共著：大谷哲・幸村誠・松本涼・小澤実・伊藤盡・中丸禎子、『東海大学文学部紀要』第110号、2020年3月掲載 「学会報告：トークセッション『『ヴィンランド・サガ』からみたアイスランド』」共著：松本涼・矢野百合愛・渡部正平、『アイスランド学会会報』第39号、2020年8月掲載	【2本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 科学研究費補助金 基盤研究A、研究課題：海域ネットワークのなかのヨーロッパ半島：前近代ユーラシア史の観点から、課題番号19H00546（2019-2024年度）研究分担者	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
2013年1月・現在 関西中世史研究会 事務 2013年6月・現在 西洋中世学会 研究会・講演会組織委員会 委員 2018年6月・2020年8月 日本アイスランド学会 事務局員・会計 2019年8月・現在 歴史家ワークショップ 執行部	

5. 地域・社会貢献活動

公開講座（特別企画講座）「感染症・人類・社会 ～新型コロナウイルス感染症を考える 4つの視点～」第2回「中世ヨーロッパの黒死病と差別-歴史学から考える-」担当、2020年12月1日、Zoom

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

学術教養センター内：予算委員会、国際交流委員会、研究・広報委員会

(3)学内行事への参加

全学ミーティングへの参加

(4)その他、自発的活動など

遠隔授業準備における Google Classroom に関する資料作成、講習会における講師
学教センター内におけるハイブリッド授業のための準備活動